

◆ 西六甲縦走 待場

日 程 05-10-1 (土)

(計10名)

参加者 L:今山:石橋 金島 西村 野々村 待場 山本正 渡邊 一般 大橋 小谷

コース&コースタイム (下記)

場所	着 時刻	発 時刻		内容	
山電塩屋		8:00			トイレ
旗振山西手前	8:30	8:35	休憩		
旗振山頂上	8:45	8:50		眼下のすばらしさ	トイレ有り
高倉台地	9:15	9:20	休憩	3名別道から	
梶尾展望	9:50	10:05	休憩	暑い 見晴らしよし	
馬の背	10:30		写真撮影	スリル・ちょっと恐怖	
妙法寺	11:30	12:00	昼食	とんびのピーひよろ	トイレ有り
ひよどり越駅	12:45		休憩	市街地徒歩	駅トイレ
菊水山頂上	14:15	14:30		階段多い きつい坂	
鍋蓋山頂上	15:35		写真撮影		
市ヶ原桜茶屋	16:30			キャンプ青年たち大勢	トイレ・自販
布引滝	17:05	17:10		水少ない 滝総長 43 メートル	
新幹線新神戸	17:30		通過	全員無事到着	
三宮	17:55			解散	

JR塩屋駅に集合、良いお天気に恵まれ出発する。

旗振り山、鉄拐山そして高倉台を抜けての長い階段、上をあまり見ないようにゆっくりと登っていった。

次は梶尾山、横尾山、いまでも心によく残っている馬の背、少しここに居たい気がした。妙法寺で昼食、長楽寺～ひよどり越～菊水山までの一般道での暑かったこと。

早く山中を歩きたいと思った。神鉄ひよどりごえ駅の所で休憩、アイス(氷)の美味しかったこと。やっと菊水山、見晴らしもよく思っていたより楽に登れた。そして鍋蓋山～大竜寺へ、市ヶ原で大きなザックを背負ったグループに出会い、次の大峰山のことが頭に浮かんた。「頑張ろう」「山が好き」

楽しく縦走することが出来てとても嬉しく思いました。



◆ 《世界遺産》大峰・行者還り～大普賢岳

山行日：05-10-8（土）～05-10-10（月） 2泊3日

参加者：L 砂川延 SL：今山 石橋 金島 西村 野々村 待場 一般（大橋 小谷）

コース：（下記）

場 所		着時刻	発時刻		内 容	
JR 加古川	曇		8:10		7名レンタカー・2名自家用車	
壺阪			10:40		R169(経 阪神 環状 阪和 西名阪)	
吉野路大淀		11:00		休憩	柿、栗など安い	
和佐又ヒュッテ		12:20	13:00	弁当	明日はここで宿泊予定	
行者環 TN 西口	雨	14:00	14:12		雨、登るか思案も登ることに	
途中		15:20	15:25	休憩	雨風、大台原景色(原生林に短背の笹)	
奥駈分岐		15:40	15:45	休憩	男3人グループ会う小屋が使えそうな	
途中		17:00	17:05	休憩	世界遺産らしく雄大な自然	ガス、きのこ
行者環避難小屋		17:30		泊	きれいな小屋先客有り[尼崎]	
夕食		18:30	21:00	就寝	レトルトカレー汁・漬物、ご飯	おいしい
10月9日					今日は晴れそう(西空が明るい)	
起床	曇	5:00			朝食(卵雑炊もち入り)6:00	荷物整理
行者環避難小屋			7:00		お世話になりました。	
水場所		7:15	7:30	休憩	昨夜の用水はここから、零水をいただく	服調整
行者環岳	晴	7:50			平らな場所にザック置き空荷で頂上	1546m
		8:00	8:05		ザックのところ	
7 曜岳		9:15	9:30	休憩	途中鉄鎖所々あり すばらしい眺め	1584m
国見岳		10:05	10:20	休憩	途中鉄鎖所々あり すばらしい眺め	1636m
途中		11:15	11:20	休憩		
大普賢岳頂上		12:00	12:20		頂上感激、壮大なパノラマ、弥山、八経岳、大日岳 1780m	
分岐		12:40	12:50		ここにザック置き空荷で(ナップザック)	
女人結界		13:30	13:40		信仰の場所、しるし等有り	
		14:25	14:35	休憩		
分岐	曇	14:40	14:50		ザックのところ。いよいよ下山	
小普賢 石ノ鼻		15:45	15:50		岩、長い段はしご、すべる木道	怖い
佐 和 又へ		17:15	17:20		ここからアクシデント誤道。金島歩けない	ツェルト泊3名
	雨	18:00			5人→碑文石のあるところへ戻る。	テント泊 5名
10月10日	雨	6:00			SL: 今山さんと大橋さん来る。	
佐和又ヒュッテ	雨	8:00			お風呂頂戴する。	
佐和又ヒュッテ	雨				朝食(豚汁・大根酢の物なめこ、山菜金平、のり、卵)	
			10:00		帰途へアクシデント有も総じてすごく楽しかった	

—山行の総括—

★ 山域(山名)：大峰【行者還岳、大普賢岳】

報告者：砂川(延)

山行期間：'05-10-8(土)午前8時～'05-10-10(月) 2泊3日

10月8日(土)天候曇りのち雨

予定通り和佐又に車1台留置後、行者還トンネル西口にレンタカーのワゴン車で参加者全員が移動する。トンネルを出ると雨が降っていた。雨中で出発となる。先着のグループが10数人タープの下で食事を取っていた。話を聞くと、悪天のため登山は明日にしようと言っている。どうするか一瞬迷うが、相談の結果予定通り行者還小屋まで行くことにする。奥駈け道に上がる途中から豪雨となる。

荷が重くなかなかピッチが上がらないまま小屋に17時頃到着する。立派な避難小屋があり、先客が一組いたが、3室のうち2室(1F、2F)を使わせてもらうことになり、テントを使うことなく雨天の中、快適な一夜を過ごすことができた。もう少し小屋の状況が掴めていれば、テントを担ぎ上げる必要は無かったとも考えられるが、宿泊者の動向がつかめない避難小屋を宛にすることはできない。何はともあれ登山者が少ないことが幸いであった。

遅く(日が暮れてから)着いたため水場が確認できず同宿の登山者に教えてもらった。これも同宿者がいなければ、暗くなってからの到着では分からなかったところだ。

10月9日(日)天候曇りのち時々晴れ

朝5時起床、7時出発を予定して準備する。今日の行程は天気に恵まれればフルに活用し、計画からは長い歩行時間が予想される。行者還岳を東側からまき、まずザックを出会いにデポして北側から南に向かって頂上に上がる。頂上からの眺望は樹林に囲まれ良くない。東側の樹間から大台方面の稜線が見えている。

行者還岳から七曜岳、国見岳を通り大普賢岳にいたるが、道中は笹の下草に覆われた斜面にブナとの混合林、大峰を代表する景色と岩稜帯が交互に現れ、最後は大普賢にあがる急登を登りきる。360度の展望に歓声を上げる。しばらく頂上からの眺望を楽しんだ後、和佐又の出会いにザックをデポ、前回の大峰山行の宿題であった阿弥陀が森の女人結界を往復する。空荷のためコースタイムより早くデポ地に帰りつく。

大普賢から和佐又までのコースを時間的には軽く考えていた。石の鼻までの多くの階段の傾斜がきつく、滑落の危険に対する警戒から、かなりの時間を取られる。ザイルを使うか迷うが、そのまま降りることにする。後で考えれば、ここで少し気持ちに焦りがあった。

和佐又ヒュッテの出会いに着いたとき、環境省の調査のためのアンケートにつかまる。時間が取られそうなので先に行くように指示する。これが間違いの元となる。まっすぐ降りると5分もすればテンバを通りヒュッテが見えてくると判断した。しかし、ヒュッテには到着していなかった。ザックを置き上に見に行く。下山してこないの、アンケートをしていた青年と再度大台方面登山路に調査に行くも発見できずヒュッテに引き返す。

ヒュッテの主人と相談すると間違いに気がつき下山してくるよと慰めてくれる。間違っただけで169号の和佐又口に行っているとして2時間から2時間30分は時間が掛かるそうで、その時間を見計らって車を出して探してくれることになる。夜明けとともに大台方面を一周することで当夜は落ち着くことになる。

結果は標識の判断を誤り、大台方面へかなり入り込んでから誤りと判断し引き返そうとするも体力的に無理な人が出たりして、3人が現地でビバーク、5人は標識の場所まで引き返しテント泊となった。

10月10日(日)天候雨

朝夜明けとともに、ルートに入りしばらく歩くと前方より歩いてくるパーティーの仲間を発見する。

事情を歩きながら聞き、登山口に帰る。昨夜よりあった登山口のテントに就寝していたことを聞き驚く。

テントを撤収しヒュッテに全員で帰り、ヒュッテの好意で朝風呂に入れてもらう。入浴後朝食を用意してもらっていただき、やっと落ちついた気分となる。

問題点と課題

- ・リーダー指示の曖昧さが引き金となった。出会いから直ぐ下がヒュッテという甘い判断があった。
- ・長い行動時間から(10時間あまり)開放されるという浮かれた気持ちがあった。
- ・秋口の日照時間を考えに入れた余裕が計画に必要であった。
- ・分岐点で終着点であるヒュッテとの位置関係を頭に入れておく

★【行者還りから大普賢】 感想文 西村

大普賢岳からの景色に

大峰山系行者還から大普賢山行に参加するにあたり、小野アルプス、六甲のトレーニング山行に参加して備えてきましたが、何しろボッカ山行は初めての経験なので、正直前日まで参加す



ることに迷っていました。

「登ったら自分の脚で降りてくるしかない」と言われたことを心に留めて家を出発しました。

第1日目の目的地、行者還小屋へ雨対策をしての出発となった。

原生林の笹を機械で刈ったかのように、短背の笹が揃っていた。

それは見事な光景でした。鹿が食べていたからだに聞き、又びっくりしました。人間の良く通るところでは笹は伸びていました。人間と動物が共生・共存できたなら良いのにと感じました。

笹の合間に咲いているリンドウを見ては「けなげだなあ」と思ったり、「頑張れよ」と励ましてくれているように思いました。

途中で男性三人のグループと会い「避難小屋が使えますよ」と言われたときは嬉しかった。

夕食はカレースープでした。カレー味がきついのではないかと思っていましたが、カレー独特の後味は無く、まろやかで口あたりの好いスープでした。

二階の部屋を使わせて頂いたのですが、階段が垂直だったので、上がり下がりには少々苦勞しました。

朝起きて一番に空を見上げました。雨も上がってひと安心。モチ入り卵雑炊をいただき荷物整理をして出発となった。

昨夜の水汲み場で霊水を頂き、元気に大普賢岳を目指しました。日が沈みかけての水汲みは大変だと思い、早出、早着きの大切さを実感しました。

行者還岳、七曜岳、国見岳と景色を時々眺めることができました。大普賢岳頂上に着いたときは感激し、色々なことが交錯し胸が熱くなりました。

大普賢下の分岐点にザックをデポして、阿弥陀が森の女人結界往復、サブザックだけだったので身軽さを堪能しました。

分岐に戻り、和佐又に向かって下山途中に休憩した所、石の鼻から見た光景は今までの苦難を吹き飛ばし、和佐又へ下山する気力をいただきました。

和佐又ヒュッテまで、1時間15分の標識を見て、それを励みに最後の階段を降り、ヒュッテに着いたと思い大喜びをしましたが、そこは広場であって目的の場所ではなかった。

緊張の糸が切れ思考力が落ちて、少し考えれば分かることが分からなくなっていた。

この小さなミスが複合的に重なり、大きな事故の元になるのだと感じました。

和佐又ヒュッテのお父さん、お母さん、皆様方にご心配をおかけして申し訳ございませんでした。本当にありがとうございました。

— 追伸 — 帰路に立寄った柿の葉寿司は、夕食の食卓に上り家族に大好評でした。



◆ 一山山行 渡邊

日程 平成17年10月22日(土)～23日(日)

参加者 L: 山内 石橋 野々村 原田 渡邊 一般 武内

行程 【1日目: 一山、2日目: 須留ヶ峰山行は雨で中止して 自然観察路散策】

1日目: 運動公園 8:00⇒一山入口の駐車場 10:30～登山口 10:20～一山山頂 11:30(休10)～駐車場 12:10(昼食20)～阿舍利山登山口 13:12～駐車場着

14:00⇒まほろばの湯 15:00着(入浴45)⇒千町小屋(宿泊) 16:25着

2日目: 雨足が強く予定していた須留ヶ峰山行は中止。10時頃になって小雨状態になったので、近くの自然観察路の散策に出掛けた。

10:00出発～50分ほど登って来た道を下山



参加者6名は2台の乗用車に分乗して出発。途中、夜の食材を仕入れ目的地に向かった。一山の駐車場に到着後、早速、準備をして出発。

暫く山沿いに歩き登山口に到着。ここから登りになる。登山道は踏み後が少なく登山者は少ないように思われた。50分で山頂に到着。周囲の展望はよく遠くまで見渡すことができた。山頂は風があったせいかなり寒かったため早々と下山する事にする。下りになるとススキが登山道に覆いかぶさっていて足元が非常に見難かった。みずきの木は既に紅葉していたが、本格的な紅葉はまだ先のものであった。駐車場で昼食にする。時間に余裕があったので、林道を散策しながら少し先の阿舎利山登山口までを往復。

近くの温泉「まほろばの湯」で汗を流した後、宿泊先の千町小屋へ。程の大きな板の間と、他に2部屋があり、立派な施設である。その上レンジ付の炊事場、ストーブ、シャワールーム、水洗トイレ付で初めてした。

見えていて明日も天気と思っていたら夜半より強い雨が降り出す。朝まないとためリーダーが当日の山行中止を決定。

ところが10時頃から小雨になったので、急遽、近くの自然観察路の散策に出掛けることになった。観察路はよく整備されていて歩き易かった。50分で頂上付近まで登り、いろんな木や「きのこ」を見かけたが、名前の分からないのが沢山あって「きのこ」や木の名鑑があればよかったな~と思った。散策で「きのこ」や栗、梨などを持ち帰り「ゆで栗」や「きのこ雑炊」を作り山の食材を楽しむことが出来ました。

今回利用した千町小屋は設備も環境も良く又利用したい施設でした。



千町小屋は80畳
自家発電、ガスレ
の私は驚かされま

夕方は星が沢山

になっても降り止



千町小屋



一山山頂

【編集員より】



☆：夏山シーズンも終わり皆さん楽しい思い出を沢山作られたことと思います。私も三の峰、甲斐駒ヶ岳、鉢ノ木・蓮華岳の山行に参加、シンDOI登山でしたが、アルプスの素晴らしい眺望に感動いたしました。次は秋の山を楽しみたいです。 渡邊

☆：「天高く馬肥ゆる秋」です。おいしいものを食べていろんな山へ行きたいです。もっと多く山へ行く計画をしてください。 坂本

☆：先週、県立なか・やちよの森公園へ行ってきました。1時間半程のハイキングを楽しんで来ました。 野々村

☆：山行のベストシーズンとなりました。熊が出てきて怖い季節でもありますなるべく多く山行に参加したいと思っています。 ヤマ

☆：月2回の編集会議は山に登ることと違って、また、おもしろい。あまり役に立っていないけど、まあ、それはそれで…。 原田

☆：夏山教室から山登りの楽しさを覚えもう季節は秋になりました。登った山に秋の想いを馳せる毎日です。 かねしま